

ライフセーバーに求められるもの

出崎浩三（若狭和田ライフセービングクラブ）
（NPO 法人大阪ライフセービングクラブ）

はじめに

ライフセーバーに求められるものは簡単にあげると基本知識、応用知識、経験知識、応用能力、技術開発・管理に関する知識・能力、技術指導に関する知識・能力に分類できる。ライフセーバーはこれら能力を駆使し、ライフセーバーが目的とする水辺の事故の未然防止に努めなければならない。ただし、未然防止においては「見えていない、存在しない」問題を"想定する"という、問題解決とは違った能力が必要になるため、そこには明確なビジョンと目的の設定が必要である。ライフセービングにおける明確なビジョンとは、1901年に「第1回ノーベル平和賞」を受賞した赤十字社創設者ジャン・アンリ・デュナンの言葉、「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」に端的にあらわされている。さらに付け加えるならば、「人の命」だけではなく「生きとし生けるものすべての生命」に対する慈しみの心を持つところにまで到達してほしい。公益財団法人日本ライフセービング協会が近年提唱している「みんながライフセーバー」活動を当面の目的とするのも、ビジョンに向かい続けるモチベーションとして効果的である。

1. 本論

1. 1 ベーシックサーフライフセーバーに求められる要件

「基本知識」

- (a) ライフセービング技術の基盤となる学問（ライフセービング学及びこれを理解する基礎となる医学、気象学を含む物理学全般、統計学等）
- (b) 実況監視・解析で監視結果を適切に把握するための目視による観測及びその資料に関する知識
- (c) ライフセービングの重要な柱となる安全確保の手法、人間の特性や不確定性に関する知識

「応用知識」

- (a) 典型的な水難事故の三次元構造の理解
- (b) 典型的な水難事故の要因となる総合的な環境場や環境場とその推移の理解
- (c) 典型的な監視作業を把握するための支援資料（人間の特性の観測や気象予報）の利用法
- (d) 手順化した監視予測手法
- (e) 代表的な監視解析の方法

1. 2 アドバンスサーフライフセーバーに求められる要件

「経験知識」

- (a) 地域に特徴的な現象等（典型的な水難事故以外も含む）の理解
- (b) 経験した現象と類似する典型的な現象との相違
- (c) 既存の監視予測手法や支援資料の成否

「応用能力」

- (a) 予測シナリオ構築力

複数の監視事実の推移予測を支援資料に基づき適切に想定でき、想定した推移予測を量的時系列で表現できること。また、口頭や指示文書等で明確に説明できること。

- (b) 予測シナリオ修正力

応用知識で示した監視解析に基づき適切に推移予測を修正できること。また、状況に応じて新たな予測シナリオを構築できること。

- (c) 経験による決断力

典型外の現象でも、経験知識に基づき最善の時期や精度で予測の修正や再構築、またそれに即した対応を決断できること。

「技術開発・管理に関する知識・能力」

- (a) 日々の監視作業の中から技術的課題を抽出できる能力
- (b) ライフセービング学に基づく監視予測手法の作成能力とその利用方法の理解
- (c) 事故事例解析の結果をふまえて手法の成否を管理できる能力
- (d) 手法の適切な改善方法についての理解とその改善につなげる能力

1. 3 サーフライフセーバーインストラクターに求められる要件

「技術指導に関する知識・能力」

- (a) ライフセービングに必要な知識・能力の全体像を技術体系とともに理解
- (b) 各種の知識・能力の適切かつ現実的な向上方策を理解
- (c) ライフセービングに対する技術向上に関する現状と課題の診断
- (d) 各種の技術向上方策を駆使してライフセービングを指導できる能力

2 抽象度を下げた新任者に向けた説明（参考）

いままで皆さんが学んできたように、海には危険がいっぱいです。つまり、ライフセーバーのいる海水浴場は安全ではありません。ライフセーバーがいるからこそ、そこに危険がある。ということです。その危険を知ることがゲスト一人ひとりに求められます。なぜなら、人によって危険な状況が異なるからです。「ライフセーバーがいるから安心だ」と思われては困ります。

ライフセーバーの重要な仕事のひとつとして、ガードに入った海水浴場のどこにどんな危険が潜んでいるかを声掛けする。という仕事があります。非常に高度なコミュニケーション技術が求められますが、私はそれが最も重要なことだと思います。事故を未然に防ぐため

には、海水浴場にいる人ひとりひとりの、安全に対する思いが向上することこそが必要です。

情報というのは、発信さえすれば効果を発揮するものではありません。そこが遊泳区域の設定や警備員やライフセーバーの配置などのハード対策との違いです。情報を人々が認識し、内容を理解し、それを使って行動を起こして初めて効果が出る。ソフト面の対策は簡単そうに見えますが、実は非常に面倒です。相対的におカネがかからない半面、ソフト対策は受益者（海水浴場関係者やゲスト）に多くの努力を強めます。

レジャーの様相も変わっています。旧態依然の経済重視、効率重視、安全軽視の社会状況は変えていかなければなりません。

3 結語（まとめ）

若狭和田海水浴場の危険度マップを作成するワークショップの開催を提案します。

参考文献

風間隆宏, 石川仁憲, 中川儀英, 青木伸一, 田中秀治, 小峯力, 中山昭, 細田直彦 (2016) : 若狭和田海水浴場における海岸利用に対する多角的なリスク評価の試み. 土木学会論文集 B3 (海洋開発) , Vol. 72, No. 2, I_832-I_837, 2016.I_832

芳賀繁 (2012) : 事故がなくなる理由(わけ) 安全対策の落とし穴. 初版, PHP 新書, 224pp.